

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> ・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かに学力	授業改善	「表現する力」の育成を目指した校内研修・研究授業・公開授業週間の実施 表現力の変容 授業がわかりやすいこと	学習確認プログラム・全国学力調査の結果 表現力の変容 授業がわかりやすいこと
	読書の習慣化	朝読書の実施・徹底と図書館教育の実施	学校外で読書すること 朝読書の時間に生徒に読書させること
	家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化へ向けての取組	家庭で1時間以上学習すること・生徒が意欲・関心を持てる宿題を出すこと
豊かな心	あいさつの習慣化と徹底	生徒会による啓発活動 每朝の校門指導 授業時のあいさつ	あいさつすること 授業の中で生徒にあいさつさせること
	自己有用感の育成	小中連携の充実 地域行事へのボランティア参加の推進	他人を思いやったり親切にするような学習の場を持つこと・人の役に立つことができる
健やかな体	基本的生活習慣の確立	保健だより・学校だよりによる啓発活動 生徒会による生活調査等	朝ご飯を食べること 8時間以上睡眠時間をとること
	保健教育の充実	防煙教室・薬物乱用防止 教室の実施 保健授業の充実	授業の感想・レポート 子供の行動の変容
独自の項目	小中一貫教育の推進	小中連携会議の実施 小中合同研修会の実施 小中連携事業の推進	連携会議の実施状況 小学校と連携した授業改善や生活指導の取組



自己評価		
評価日	平成29年1月12日	評価者・組織
アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	評価者・組織 後藤 靖	分析(成果と課題) 分析を踏まえた改善策
学力テスト等の結果はある程度の伸びは示しているが、依然「表現する力」は弱い状況にある。(全国学元)	小学校と連携した授業改善の取組により、1、2年の学力の伸びは見える。「授業がわかりやすいこと」重要度(6. 7)実現度(5. 0)と実現度がやや低い。	授業力向上に向けて校内研修の充実を目指す。また、授業改善に向けた小中連携の取り組みを推進する。
前回同様、朝読書には集中して取り組んでいるが、学校外の読書は変わらずできていないと思われるが、習慣化するには新たな取り組みが必要。	小中連携行事の「読み聞かせ」や図書室整備により、生徒の読書への興味関心は高まってきていると思われるが、習慣化するには新たな取り組みが必要。	図書室の利用、活用を含め、図書館教育を推進していく。
家庭学習課題への取組は良好だが、家庭学習時間が少ないのは変わらない。1時間以上学習する重要度(6. 4)実現度(4. 3)	家庭学習については、学校全体で取り組んでいる成果が表れているが、さらに継続して取り組む必要がある。	家庭学習課題の内容、評価等の振り返りや教師からの家庭学習へのアドバイスを充実させる。
「あいさつすること」重要度(6. 7)実現度(5. 7)と3学年とも高い状況を維持している。	あいさつについては、生徒会、部活動を中心に良好な状況である。今後は全校に浸透するような取り組みが必要。	生徒会を中心とした生徒の主体的な活動を支援していく。
小学校との連携行事や校内行事において生徒たちの望ましい姿が感じられる。また、全国学力調査では自尊感情に関わる項目が高い値を示している。	学校全体としては、自尊感情や自己有用感に関する肯定的な回答はまだ低いが、地域のボランティア活動等への参加などから生徒の成長する姿がうかがえる。	小中連携行事やボランティア活動での成果を見える形で肯定的に評価し、生徒自身が成果を実感として捉えられるように努める。
「8時間以上睡眠時間をとること」重要度(6. 4)実現度(3. 7)と低い、「朝食を吃べること」重要度(6. 6)実現度(5. 9)と高くなっている。	大きな生活面での乱れはない。基本的な生活習慣の実現に向けては家庭と連携を強める必要がある。	睡眠時間確保を含め、基本的生活習慣の定着に向けて家庭への協力を求める。
防煙や薬物乱用防止に関する教育など健康教育のさらなる充実が必要である。	防煙や薬物乱用防止に関する教育など健康教育のさらなる充実が必要である。	健康教育をいっそう充実させるとともに、学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの健全育成へ向けて取り組む。
「小学校と連携して授業改善や生徒指導に取り組むこと」重要度(6. 5)実現度(5. 5)	小中連携の重要性も浸透し、成果も見える形で出てきているが、具体的な取り組みをさらに充実させる必要がある。	小中連携における質的な向上を目指し、連携会議や合同研修会を軸にPDCAサイクルの中で小中一貫教育を推進していく。



学校関係者評価	
評価日	平成29年3月13日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
授業力向上に向けて、さらに取組の充実を図って欲しい。	授業改善に向けて、地域としてできるボランティア活動など含め支援できることをしていきたい。
ブックトークや読み聞かせなど読書が定着するような取り組みをして欲しい。	図書館の充実に向けて、地域やPTAから活用への発信をしてはどうか。
家庭学習課題の内容や学習時間の充実に努めて欲しい。	児童館の職員からも来館した子どもたちに家庭学習のアドバイスをしてもらってはどうか。
生徒たちの主体性の高まりにより、あいさつができるよう地域としても積極的に関わっていく。	生徒が進んであいさつができるよう地域としても積極的に関わっていく。
一斉清掃では、地域の人たちも大変喜んでいる。大変ありがたいし今後も継続して欲しい。	地域の行事等を通じ、子どもたちを見守るという意識を大人に訴えていきたい。
睡眠時間の問題に限らず、スマホや携帯の使い方については家庭での指導が大事である。	地域の大人口や保護者同士のネットワークを強化し、子どもたちを地域で見守るように声かけしていく。
防煙や薬物乱用防止についての話題を家庭の中でするようにして欲しい。	防煙や薬物乱用防止について地域でできるパトロールや呼びかけなどを積極的に行っていきたい。
小学生とのあいさつ運動や運動会へのお手伝いにより、中学生への地域の期待が高まっている。	小中一貫教育の推進に地域・PTAとしてどのように関わり、支援していくか検討していく。

3 総括・次年度の課題

- ・小中連携の取組により、小中での授業研修が深まったり、授業チェックシートの活用により教師側の指導力も向上した。これにより生徒の学習意欲向上に繋がった。
- ・生徒会本部役員が中心となり、様々な行事・取組の場面で生徒が主体的に行動することができた。
- ・学校評価アンケートの結果をPTAや学校運営協議会の理事の方々へ発信することで、中学校の教育活動への理解を深めていただいた。
- ・次年度の課題としては、生徒の学力向上に向け「対話的な学び」を生み出す授業を展開することと、「社会性と主体性」の育成に向けて小中連携を推進し、地域と協働しながら教育活動を進めていきたい。